

〔3年生へ〕

入社・入学までに準備しておくこと

就職・進学試験も終盤戦。夏休み返上で必死に努力した結果、既に多くの3年生が内定や合格をいただいています。“ほっ”と一安心という心境でしょうが、内定や合格はゴールではありません。企業で働いたり、上級学校で学んだりするためのスタートラインに立つ権利を手にしただけです。勝負はこれから！入社後、入学後に役立つ人材＝人財となるため、これからは今まで以上に真剣な学びが必要になります。



就職の場合

- ①時間厳守 社会で信用されるための第一歩！
- ②自ら学ぶ 仕事に必要な知識や技能，社会人としての一般常識などを身に付けるため日々の勉強が必要。自ら学ぶ姿勢が大事です。
- ③健康管理 体調を崩して休みをとると他の人に迷惑をかけることもあります。「働き続けられる体力」を維持することも社会人として大切なことです。
- ④言葉遣い 社会人になれば，みなさんの保護者の方よりも年上の方と一緒に働くことになります。また，職場によっては「お客様」と接することもあり，言葉遣いや挨拶に気を配る必要があります。急にはできません。普段から意識しましょう。

進学の場合

上級学校入学後に必要とされる力を身に付けよう。

- ①さまざまな文献を読んでまとめる力・・・英語もあるよ
- ②レポートを書くための文章力・・・評価の対象に
- ③講義に対応できる基礎学力・・・今から復習だ



工業高校は普通高校より普通教科の授業時数が少ないです。入試では必要なかった科目でも入学後に必要となるものもあります。自分で調べ，事前に学習しておきましょう。また，進学後は大人として扱われることが多くなるので，より自主的に自発的に勉強する姿勢が不可欠となります。

有意義な学生生活となるかどうかは，全て自分の取組次第です。

〔1・2年生へ〕

工業高校からの進学について

①推薦入試で受ければ，「100%合格」・・・ではない。

少子化の影響もあり，学校を選ばなければ，どこかに進学できる時代になっています。しかし，学校間格差も広がり，推薦入試の倍率が5倍（受験者5人で不合格4人）を超えている学校も珍しくありません。また，国公立大の推薦は1.5～2倍程度の倍率のところもありますが，各高校のトップクラスの生徒が受験する少数精鋭の勝負だということも頭に入れておいてください。

②倍率が低ければ全員合格・・・ではない。

たとえば30人の募集定員で24名しか受験しない（倍率0.8倍）ときには全員合格かということ，そんなことはありません。実際に過去の入試データをみると，倍率1倍未満でも基準に達していないと判断された受験生は落とされています。推薦入試の後には一般入試もあるので，無理に定員枠を埋める必要はないのです。逆に，併願が可能な学校は定員より多く合格者を出すので，数字ほど難しくもない場合があります。

③推薦入試だから、受験勉強はいらぬ…わけではない。

国公立大の推薦入試は「面接のみ」と書かれていても、必ず面接の中で口頭試問があるので学科試験を含んでいると思ってください。学校の授業で習った範囲外からも出されることがあるので、課外授業を受ける、添削指導を受ける、当然ですが自分で学習する等々の準備が必要です。私立大でも小論文試験の中に学科試験の内容が含まれていることがあり、レベルは定期考査の内容より高くなります。また、小論文は練習を重ねなければ書くことはできません。このように推薦入試といっても、普通の授業を受けるだけでは不十分で、 $+\alpha$ の勉強が必要になってきます。



④面接だけなら準備はいらぬ…わけではない。

試験内容が書類審査と面接のみ、という学校もあります。楽に受験できそうなイメージもあるかもしれませんが、面接だけで判断されるわけですから、ちょっとしたミスが不合格に直結してしまいます。十分な面接対策が必要です。

⑤工業高校からの進学は不利…とは限らない。

大学や職能短大、高専などでは、工学部、教育学部、農学部などで専門高校の生徒だけが受験できる入試を設けている学校が多数あります。また、指定された学校からしか受験できない指定校推薦の枠も多くの学校からいただいています。これらの入試を利用する場合、評定や出席日数、資格などの条件を満たすことによって普通科高校の生徒よりも有利に受験できます。



⑥どこの学校も同じ…ではない。

同じ分野を学ぶ学校でも講義の内容、設備、就職の実績など学校によりかなり差があります。偏差値の高い学校や人気の高い学校＝良い学校とは限りませんし、学校によって大きく差が出てくるのには理由があるはずで、とりあえず「入れる学校」を選んでいては後悔することになります。きちんと調べて、自分の力を高めることのできる「入りたい学校」を選択してください。

〔全学年へ〕

朝食は大事だぞ

右のグラフは、朝食を毎日摂っていた大学生と毎日摂らなかった大学生で、第1志望の企業、大学へ入学できた割合を比較したものです（東北大学調べ）。

朝食の重要性が、このグラフからも分かります。脳を活性化するためにはエネルギー源であるブドウ糖を摂ることが必要なのです。ただし、おにぎりだけ（糖分だけ）の朝食では、摂らなかった人との差が余りでなかったそうです。ブドウ糖が有効に働くためには補助的な栄養素（ビタミン群、必須アミノ酸）なども欠かせないからです。具体的には、「ごはん＋豚汁＋サラダ＋納豆」がベストな組み合わせだそうです。

ちなみに社会人でも年収の高い人ほど朝食を毎日摂っているというデータもあるそうです。

(%)

